

令和 7 年度東京都立第五商業高等学校経営報告（定時制課程）

I 今年度の取組と自己評価

I 教育活動への取組と自己評価

(1) 学習活動

取組目標	具体的な取り組み状況																				
①学力の向上	・学習指導要領に基づき、「主体的で対話的な深い学び」の指導や評価について研究しながら、本校の教育課程にもとづいた質の保証を図った。また、少人数制指導等の授業形態を工夫するとともに、「指導と評価の一体化」により授業改善・充実化につなげる努力をした。 ・不登校経験者が各学年に含まれることを考慮し、英語・数学・商業の一部の授業において少人数制授業を展開した。商業科目では各自の学習到達度に応じた検定級を目指して取り組ませたほか、各教科において授業内容の工夫を行い、生徒の基礎学力の定着を図った。 ※「観点別学習状況の評価」の適正な実施に向け、その質の向上・授業改善を行う。 ※教育ダッシュボードの導入による教育データの利活用を促進する。																				
②指導力の向上	・生徒による授業評価、授業公開等、学校内外での研修成果をいかし、組織的に授業の内容と方法の改善・充実化を図り、学習指導の充実に努めた。 ・全教科で教科の特性や生徒の興味関心を捉え、計画的に外部講師等によるセミナーを開催するなどして、学ぶ意欲を高める。 ※個々の生徒の特性に応じた学習形態を中心とした日常的なOJTは推進するとともに、教員相互の授業参観、校内研修を計画的に推進する必要がある。																				
③資格取得推進	・資格取得を年間指導計画の重点事項に位置付け、該当教科が組織的に指導の強化に努めた。また、人間と社会、教科指導をとおして、資格取得のガイダンスを強化し、生徒に目標をもたせ、学期ごとの通知表等でその成果を確認、終業式等で表彰するなどして次の励みとなるように工夫を図っている。 ※多様な生徒に対応した教科指導の充実、補習の実施と拡充、個別の支援等を重ね、様々な資格取得に取り組ませ、進路実現にいかしたい。 【状況】 <table><tr><td>全経簿記</td><td>2級取得</td><td>5名、3級取得</td><td>5名</td></tr><tr><td>日検文書デザイン</td><td>1級取得</td><td colspan="2">5名</td></tr><tr><td>日検ワープロ</td><td>1級取得</td><td>1名、2級取得</td><td>2名、準2級取得1名、3級取得2名</td></tr><tr><td>日検情報処理（表計算）</td><td>1級取得</td><td>2名、準1級取得</td><td>3名</td></tr><tr><td>全商英語</td><td>3級取得</td><td colspan="2">2名</td></tr></table>	全経簿記	2級取得	5名、3級取得	5名	日検文書デザイン	1級取得	5名		日検ワープロ	1級取得	1名、2級取得	2名、準2級取得1名、3級取得2名	日検情報処理（表計算）	1級取得	2名、準1級取得	3名	全商英語	3級取得	2名	
全経簿記	2級取得	5名、3級取得	5名																		
日検文書デザイン	1級取得	5名																			
日検ワープロ	1級取得	1名、2級取得	2名、準2級取得1名、3級取得2名																		
日検情報処理（表計算）	1級取得	2名、準1級取得	3名																		
全商英語	3級取得	2名																			
④図書館の利活用の推進	・図書館委員会担当や図書館専門員と連携し、利用しやすい図書館運営、読書活動の推進など、社会人としての感性をはぐくむ教育環境を整えた。引き続き図書館蔵書の更なる充実化を図る。 ※図書館を活用した授業や、進路指導としての図書館の活用を行った。 ※今後は夏季休業期間中の課題図書の選定等、読書指導計画の策定及び実施をとおして未読者率の更なる減少を図る。																				

(2) 進路指導

取組目標	具体的な取り組み状況
①キャリア教育の充実	・進路指導部が中心となり各分掌と連携し、キャリア教育の全体計画にもとづく4年間を見通した進路指導の改善と充実を図り、卒業後のフォローアップ指導も含めた進学先や就職先の拡大に努めた。 ・今後も進路相談及びハローワークと連携した支援を継続していく。 ※社会人として必要な基礎学力の充実を図り、自己の適性や能力に合った進路決定が主体的にできるよう入学時から系統的、意図的、計画的に指導したい。 ※人間と社会等の体験学習をとおして、奉仕や道徳、勤労観・職業観の精神を涵養し、総合的な人格形成、人づくりを行い、生徒の進路希望を高いレベルで実現させるための努力をしていきたい。 ※来年度は、教員が進学説明会等に参加し情報収集し進学指導について研鑽していく。 【状況】就職 2名(9名)、進学 3名(0名)
②連携と情報の共有	・企画調整会議を利用し生徒の進路状況について情報交換を行い、学校全体で生徒の夢・希望との出会いや自己実現に向けての支援、困難に立ち向かう意欲等を育成してきた。 ・進路ガイダンスや体験学習をとおして、生徒へ適切な情報提供に努め、それらを生徒自らが活用できるよう外部関係機関との連携を強化した。 ※今後も進路ガイダンスや体験学習を通じて、生徒への適切な進路情報の提供に努め、それらを、生徒自らが活用できるよう整備等を進めていく。

(3) 生活指導

取組目標	具体的な取り組み状況
①生活指導の徹底	・生活指導部が中心となり、登校時の正門での挨拶・交通安全、学校施設の適切な使用等の徹底を図り、規範意識の向上、あいさつなど基本的な生活習慣の確立、マナー教育の充実に努めた。 ・全教職員が本校の指導規定の共通理解のもと粘り強い指導を行い、充実した学校生活を目指した。 ・登校時の立ち番指導を通年して行い、自転車の乗り入れ禁止による事故防止と、全日制の生徒とのトラブルの未然防止に努めた。 ・企画調整会議を利用し、学年・分掌・保健室(スクールカウンセラー)、並びに行政機関との連携力を高め、生徒の情報共有を促進するとともに、多面的な視点から指導・支援の方法を考案する指導体制を確立した。 ※引き続き生徒や保護者との信頼関係を構築するとともに、生徒の心身の健康状態を的確に把握し、教員間で情報を共有することにより生徒理解に努めていく。
②生命・人権尊重教育の推進	・「人間と社会」において4回にわたるインクルーシブに関連する学習をとおして、インクルーシブな社会づくりについて主体的に学びを深めることができた。 ・スクールカウンセラーによる「SOSの出し方」教室を実施することができた。 ・消防署や警察署、学校薬剤師等と連携して、交通安全教室・防災講話・犯罪加担防止教室を企画・運営し、事故・事件や災害時に適切な対応ができる実践力の育成を図った。 ・防災教育の一環として初期消火訓練を実施することができた。 ・夜間の教育活動中の大地震などを想定した防災体制の構築や、防災支援隊による避難所の運営など、防災教育を確実に実施して備えた。 ※企画調整会議を利用し教員間で情報を共有することにより、生命尊重やいじめ等の生徒の事故や事件を未然に防止する指導体制及び取組を推進する。 ※全教育活動をとおして総合的な人格形成、人づくりを行い、生徒の目標を高いレベルで実現させ、生徒の心身の健康・体力の向上を図るとともに、強い心を育みたい。

	※今後も地域や消防署、警察署と連携して防犯・防災教育の充実を図っていく。 ※セーフティ教室にて、インターネットの適切な使用、交通安全、薬物乱用防止等の講演会を開催し生徒の規範意識を高めた。 ※保健講話については、今後も工夫した内容を企画していく。
③美化意識の向上	・教室内の清掃、授業規律の徹底を図り、落ち着いた雰囲気のある授業を実施することで、生徒が主体的に学ぼうとする態度を確立し授業効果を高めた。また、美化活動を通じた地域貢献の充実を図った。 ※引き続き校内清掃と地域清掃活動をととして美化意識の向上に努める。

(4) 特別活動

取組目標	具体的な取り組み状況
①魅力ある学校行事	・学校行事（生徒総会、スポーツ大会、レッツ五商等）は生徒が主体的に参加できるよう、企画・事前準備等の指導を計画的に行った。 ・7月と3月のスポーツ大会において生徒による実施種目の検討を行うなど主体的に行事に取り組ませることができた。 ・レッツ五商において生徒の達成感・充足感を満たすことができ、ほとんどの保護者に参観いただき関心度の高い行事となった。 ※学校行事は、少人数の利点を生かし学年の垣根を超えた一体感のあるものとなった。 ※引き続き、生徒会や委員会の生徒を中心に、学校のスケールに応じた方法を柔軟に考えさせ、持続可能な学校行事の運営を目指す。
②部活動の推進	・部活動への積極的な参加を促し、生徒の実態に応じて新たな部・同好会の設立にも柔軟に対応した。 ・生徒の実態に応じた部活動の在り方を再考するとともに、部活動や特別活動への参加を奨励し、各種競技会への参加と入賞を目指したい。 ※部活動同好会加入率：69.4%（兼部可 全校生徒37名・部活動加入生徒27名） ※生徒数減で部活動を維持することが課題である。
③国際教育とボランティア精神の育成	・外国人英語等教育指導員の助力を得ながら、言語活動の充実を進め、語学・国際感覚などをとおして、共に生きる国際協調の精神を培った。 ・校外における芸術鑑賞教室などの機会を捉え、日本の伝統・文化、国際交流、国際理解教育を推進した。 ・国立市社会福祉協議会と連携し、学校周辺の清掃活動など地域清掃活動をととして地域貢献を行った。 ※引き続き社会性の醸成と地域貢献も合わせて地域清掃活動を継続していく。
④主権者教育の推進	・国立市選挙管理委員会の協力の元、選挙時の投票について学ぶことができた。 ・生徒会の選挙公約の実現や、生徒の自治活動の推進など、生徒会活動の活性化を図り、リーダーを育成したい。 ※授業や特別活動、防災教育等により、地域貢献を果たし、生徒の自己有用感・達成感を高め、社会の一員としての自覚を育んだ。

(5) 健康づくり

取組目標	具体的な取り組み状況
①心の教育の推進	・保健相談部が中心となり、各学年、スクールカウンセラー等と協力し、美化や保健、心身の健康について、よりよい環境づくりに主体的に関わろうとする生徒の育成を図った。 ※スクールカウンセラーと連携を図るとともに、特別支援教育についての校内体制を構築し、本校の教育相談機能の更なる向上を図った。
②体力向上の推進	・保健体育科が中心となって、学校全体で生徒の体力の総合的な向上を図る努力をした。

	※体育の授業の中で基礎的な筋力トレーニングを毎時間取り組むことができた。 ※学年ごとに授業体系を工夫し、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てたい。
③保健・健康教育の推進	・保健相談部や保健体育科を中心に、食育や心身の健康、体力の向上等に関する全体計画を作成し、組織的な指導体制を構築し、取り組むとともに、生徒の委員会活動を活性化させる努力をした。 ※給食喫食率 50.1% (45.0%) ※生徒の心身の健康・体力の向上を図るとともに、学校行事、HR活動、生徒会活動、部活動等とおして、体罰やいじめの根絶を継続している。
④教職員の健康維持管理とライフ・ワーク・バランスの推進	・定期健康診断受診100%を目指し、教職員自身が健康管理や心身の健康保持と改善に努めた。 ・「学校における働き方改革推進プラン」にもとづき、教職員がテレワークや時差通勤を弾力的に運用した。 ・超過勤務の実態を把握するとともに、校内環境の整備と教職員の健康管理に努めた。 【状況】健康診断受診率 100% (100%) 【状況】年休15日以上取得率 80% (100%) 【状況】時間外労働45時間超えの教員 0名 (0名)

(6) 募集対策

取組目標	具体的な取り組み状況
①募集・広報活動の充実	・ホームページを適時更新し、本校定時制課程の教育活動の状況などを積極的に発信し、学校広報活動を充実させるとともに、中学生や保護者の定時制・商業高校に対するニーズを把握し、学校案内やチラシを工夫するなどして充実を図りたい。 ※応募倍率 0.33倍 (0.37倍) ※令和8年度入学希望者選抜においては、12名が入学を予定している。
②学校情報の発信	・学校からの日常の連絡やメール配信、ホームページの充実、保護者会等の開催により、家庭と学校との緊密化を図った。 ・ホームページの更新を適宜行い、生徒の活躍など、五商の取組を積極的に発信して学校広報活動を推進した。 ※今後も各家庭との学習、生活、進路等についての情報を共有し、諸課題の解決に向け努力を続けていく。
③開かれた学校の推進	・開かれた学校づくりを推進するため、学校運営連絡協議会の評価等を活用するとともに、学校説明会や授業公開をおとして地域や家庭との連携を図り、本校の教育活動についての理解を推進した。 ・地域ボランティア等への参画、学期末の地域美化活動を通じた地域貢献、部活動における地域連携協力の充実を図り、本校定時制の活動の様子を積極的に発信し、地域社会への浸透を図っていく。 ※校外清掃の実施 2回 (2回)

(7) 学校経営

取組目標	具体的な取り組み状況
①学校運営の組織力を強化	・企画調整会議をおし、学校課題の解決に向け各業務を効率的に行い、各教科や校務分掌の中間まとめ・年間総括にもとづいた課題解決と自律経営推進予算の効果的な編成実施管理に取り組み円滑な学校運営に努めた。 ※学校経営の適正化のため、業務のPDCAサイクルを定着させ、組織の改善・充実に努めていく必要がある。
②校内DXと働き方改革の推進	・ICTリーダー、ホームページ管理運営委員会等を中心に、ホームページでの発信を行った。 【状況】ホームページの更新 48回 (54回)

	※ＩＣＴリーダー・ＩＣＴ支援員を中心に定時制でも計画的にＩＴ化を進めていく。 ※年に数回は定期考査のマークシート方式の導入を推進し校務のＩＴ化を進めていく。
③喫緊課題への対応	・校内研修や毎日の打ち合わせをとおして自覚ある行動を促し、服務事故０件、体罰のない指導の徹底に努めた。

Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

課題と対応策	
●学力向上、資格取得の推進 ① 少人数制指導等の授業形態を工夫するとともに、主体的・対話的で深い学びによる指導と評価を研究開発して、組織的な授業改善・充実化を図り質の高い学習指導を実現する。 ② タブレットパソコンなどＩＣＴ機器を活用した授業を展開する。 ③ 資格取得を通して、ビジネスに必要な資質・能力の向上を図るとともに、大学進学の手立てとする。 ④ 外国語教育と国語教育、読書活動、言語活動の充実を図る。	
●進路実績・生活・心身の健康・体力の向上 ① 全教育活動を通して総合的な人格形成、人づくりを行って、生徒の進路希望を高いレベルで実現させる。 ② 「人間と社会」の体験学習を通して、奉仕や道徳、勤労観・職業観の精神を涵養するとともに、意図的、計画的、系統的なキャリア教育を進める。 ③ 都の生活指導指針のもと、規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立、マナー教育の充実に努める。 ④ スクールカウンセラーと連携を図るとともに、特別支援教育についての校内体制を構築して、本校の教育相談機能の更なる向上を図る。 ⑤ 生徒の心身の健康・体力の向上を図るとともに、強い心をはぐくむ。 ⑥ よりよい校内環境の創造のため、安全面や校内組織体制を整備する。	
●特別活動等の充実化 ① 日本の伝統・文化、スポーツ、国際交流、国際理解教育を推進する。 ② 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等を活性化するとともに、体罰やいじめを根絶する。 ③ 小・中学校や大学、地域との交流や連携を一層推進する。	
●地域や家庭との連携強化、目的意識や学力の高い生徒の入学 ① 保護者会や三者面談など、家庭との連携を図り、学習、生活、進路等についての情報を共有し、共に解決に向けて努力を続けていく。 ② 授業や特別活動、防災教育等により、地域貢献を果たし、生徒の自己有用感・達成感を高め、社会の一員としての自覚をはぐくむ。 ③ 積極的な情報発信に努め、本校の果たす役割と意義について地域社会への浸透を図る。 ④ 中学生や保護者の商業高校に対するニーズを把握し、学校広報活動を充実させる。	
●学校経営の適正化 ① ＰＤＣＡサイクルを定着させ、学校経営の適正化のため、組織の改善・充実化に努める。 ② 自律経営推進予算を効果的に活用し、教育効果を最大限に上げる。 ③ 教職員の有する教育力を最大限に発揮できるよう、働き方改革、ライフ・ワーク・バランスを推進して、校内環境の整備と健康管理に努める。 ④ 生徒の安全管理、防災対策の充実化を図る。	

以上